

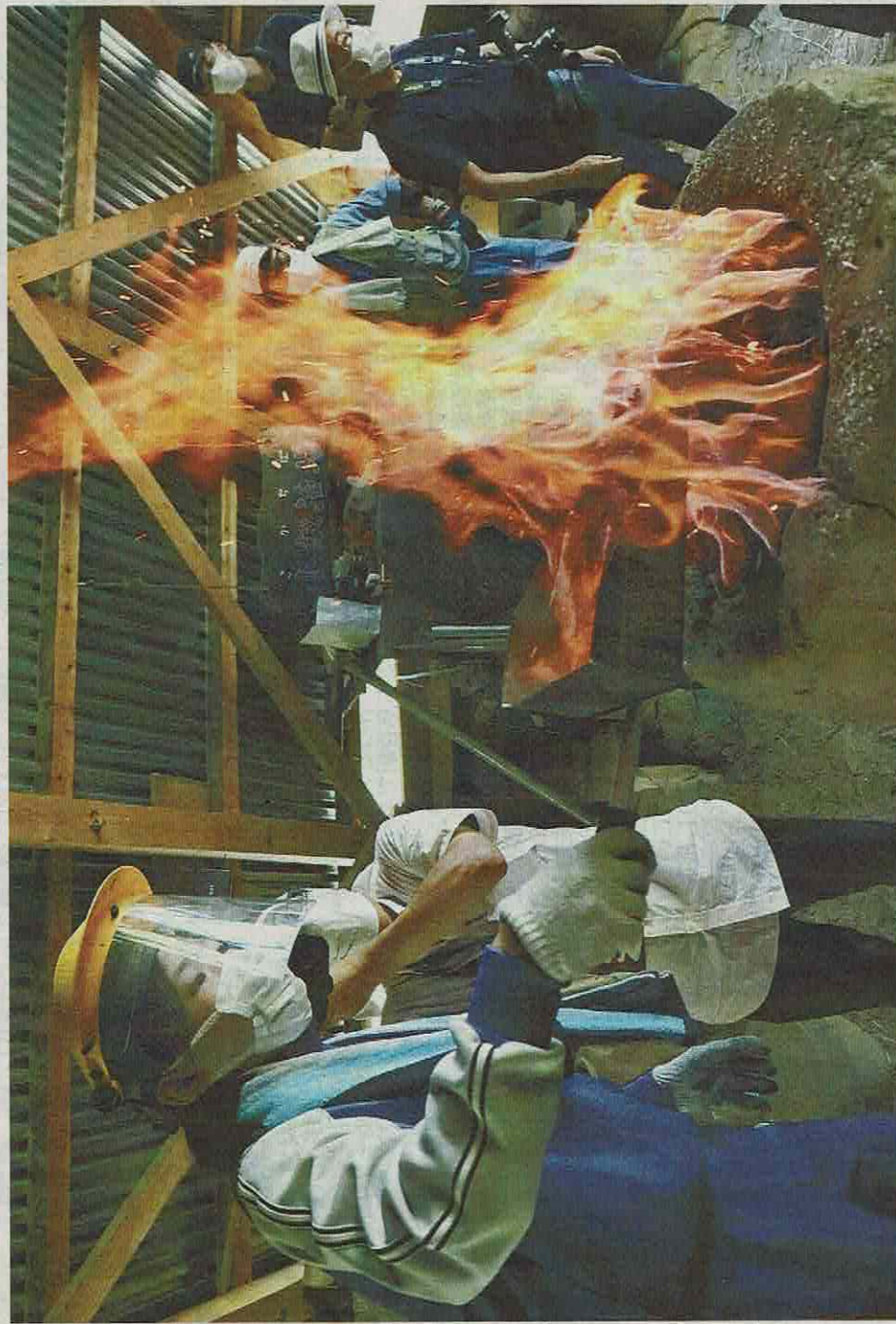
炉に砂鉄などを投入する大原小の6年生

燃え盛る炎と格闘

大東原小・6年生 たたら製鉄体験

一関市大東町の大原小学校(菊池正人校長、児童97人)のたたら製鉄体験は10日、同町大原の砂鉄川たたら製鉄学習館で行われ、6年生17人が地域で受け継がれてきた製鉄の歴史を肌で感じた。

製鉄体験は製鉄文化の継「ホッパの会」(勝部昌平 始まり、統合後は大原小が承などに取り組む地元の「会長」が主導。旧内野小で引き継ぎ今回で23回目。見



童が8月20日に砂鉄川で採集した砂鉄が使われた。

同館敷地内に高さ約1.2メートルの炉が二つ設置され、児童は2班に分かれて鉄作りを体験。炉に投入する木炭を細かく砕いたり、時間を計ったりしながら、炉に10分置きに一定量の木炭と砂鉄を交互に投入していった。炉は1300〜1400度に熱せられ、児童は汗を拭いながら、会員の手ほどきを受けて最後まで落ち着いて作業に取り組んでいた。

合間には、かつて炉に空気を送るために使われていた櫓の使い方も体験。会員が砂の中から砂鉄を集め



二つの炉から採取された合わせて18品の鉄の塊。今後は卒業制作に活用される

「鉄穴流」介した。鉄穴流は

自分たちをする大層